

# 昭和大学富士吉田校舎広報誌

第1号 2008.4.11 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 片桐 敬  
編集責任者 富士吉田教育部教授 喜多村 得也  
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562  
TEL 0555-22-4403



森川元之撮影

## 広報誌発行のご挨拶



### 学校法人昭和大学理事長 小口 勝司

この度、昭和大学富士吉田校舎広報誌を発刊する運びとなり、本誌が記念すべき第1号となります。今後皆様方のご意見を伺いながらより良いものにしていきたいと思っております。

新年度を迎え、平成19年度入学生諸君は富士吉田校舎での貴重な1年間の生活を終え、新たな環境での学生生活が始まります。この1年間、4学部、分野は違っても「医療」を志す者同士が協力し合って生活を共にしてきたことは、将来大きな財産となると思います。ご父母の皆様も、お子様が医療人として大きく成長していく姿を見守っていただきたいと思っております。大学と致しましてもさらなる発展を期して邁進していく所存ですので、ご協力の程よろしくお願い致します。



### 富士吉田教育部長 片桐 敬

霊峰富士の雪を頂く姿が間近に拝める、ここは昭和大学富士吉田キャンパス、富士吉田教育部です。昨年度から従来の医・歯・薬に加え保健医療の4学部の1年生全員、約600名が、学習の第一歩を全寮制で踏み出しました。全寮制共同生活により、豊かな人間性と広い社会性及び基礎学力を身につけるといいう教育理念に基づいて、肉体的、精神的に悩める人々に対する同情心、「至誠一貫」の建学の精神に基づく奉仕する心、及び倫理的に厳正な心を培うことを旨としています。寮生活により、無二の親友となる人との遭遇も御子弟には数多く見受けられたことでしょう。

雄大な自然環境の下、クラブ活動が盛んです。強靱な体力を養い、チームの一員としての共同作業によるチーム医療の原則が培われます。しばし、都会の喧噪を離れ、自分自身を見直してみるよい機会となったことでしょう。

いざとなった時に頼りになる人を目指して!

# 早期体験実習・ハンデキャップ体験・救急蘇生 AED 実習について

富士吉田教育部教授 田中 一正



救急蘇生

表題に早期体験実習と書かれても経験者には分かりますが、今から来る新生生には何のことやらの言葉でしょう。百聞は一見に如かず、聞いた百両より見た一両などのことわざにもありますが、先生と学生がイメージで学習をしているかは大事なことです。医学医療の世界を志して入学された皆さんですが、現実の医療・福祉の世界を知っておられるわけではありません。多くの本を読み知識として考えられているでしょうが、全員が入院や障害経験をもたれているわけではありません。そこで昭和大学では、「将来、多様な背景を持つ人々に、誠意を持って、適切な対応が出来る社会性ある医療人になるために、保健・医療あるいは福祉等にかかわる施設での体験実習を行い、医療の担い手としての自覚を持ち、人間関係を築く基本的態度を養い、専門教育へのモチベーションを高める」を目標として多くの施設でそれぞれが体験学習をしてお互いの経験を共有する時間を設けています。まずは、見せていただく、体験させていただく、経験を積ませていただく、感謝の気持ちで自分の態度が表せる、だからこそ医療の現場に率先して参加できるそんな1年生からはじめてみませんか。



ハンデ体験実習



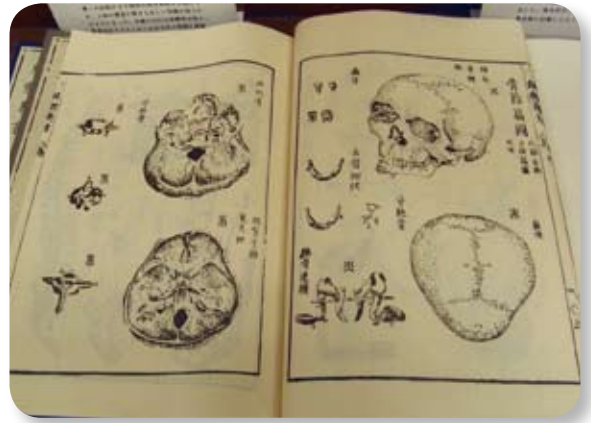
スモールグループディスカッション

## 図書館から本の紹介

「かえすがえすもわたしはうれしい。  
この道がひらければ、百年・千年の後の医者に  
本式の医術を覚えて人の命を救うという、  
大きな益があるだろうとおもうと、  
いてもたってもいられないほどうれしい。」

(杉田玄白『蘭学事始』のむすびの言葉、緒方富雄現代文訳)

杉田玄白、前野良沢、中川淳庵らが、南千住小塚原刑場での腑分（解体）を見聞し、オランダ語の解剖書ターヘルアナトミアの図の正確さに驚き、その本を訳す決意をしたのが、237年前の3月でした。もう翌日から集まり、どう訳してよいか、まったく見当がつかないままに苦心惨憺して、ついに3年半をかけて1774年（安永3年）『解体新書』5巻を完成させました。これは、ヨーロッパの学術書の最初の本格的な翻訳書となりました。そういう苦心を中心に蘭学の発達の足跡を語ったのが『蘭学事始』です。その結びの言葉は、現代のわたしたち医療人に純粋な情熱の大切さを教えてくれているようです。



『解体新書』（富士吉田校舎図書館蔵）



『ターヘルアナトミア』の復刻版の一部（富士吉田校舎図書館蔵）

## 食堂の紹介

皆さんが入寮したら食事のことって気になりますよね。ここでは食堂について少し説明します。富士吉田校舎の食堂は学生の皆さんが在寮している期間は朝・昼・晩の3食を提供しています。食事は栄養士さんが常にバランスを考えているので安心して食べることができます。また、アレルギーを持っている人は気軽に食堂の人に声を掛けて下さい。ちゃんと別のメニューで対応してくれます。



### ●食堂人気メニュー TOP 5 (平成19年度)

- |      |    |           |
|------|----|-----------|
| 男子学生 | 1位 | うな井・肉類    |
|      | 2位 | チャーハン     |
|      | 3位 | カレー       |
| 女子学生 | 1位 | ラーメン      |
|      | 2位 | チャーハン・ちまき |
|      | 3位 | ウイングの唐揚げ  |



いつも作りたての味です

## 富士吉田での余暇活動について

吉田 詠里加さん (医学部 湘南白百合学園高校出身)

私は部屋コンを通して一年間、この大自然に囲まれた富士吉田で沢山の経験をしました。昨春、メンバーの名前と顔もあまり一致しないまま行われた一回目の部屋コンの場所は河口湖。一体何をやるのだろうと期待の反面、メンバーの皆と仲良くなることができるか不安でもあったことを今でも覚えています。しかし、河口湖でカヌーをしたり、自分の夢などを交えてお互い自己紹介することでメンバーともすぐに打ち解けることができました。また、秋には皆で準備をして青空のもとバーベキューをしたり、先生を交えて色々な話をしました。このように素晴らしいメンバーに恵まれて一年間生活することができたことは一生心に残る思い出になりました。

そして、これらの寮や授業とは違う貴重な経験を与えてくださったり、親身に相談にのっていただいたコンパ担当の先生に本当に感謝しています。ありがとうございました。



## クラブ活動紹介 第1回

馬術部 1年生馬術部代表 中澤 希紀さん  
(保健医療学部 作業療法学科 茗溪学園高校出身)

私たち馬術部員の多くは、大学に入ってから初めて馬に乗った人ばかりです。最初は慣れないことばかりで大変でした。四月の頃は馬をただ歩かせるだけでも難しかったのですが、合宿や平日の練習を通して馬とふれあい、多くのことを学びました。今では一人で乗れるようになり障碍飛越にも挑戦しています。近くに馬場があるので、馬術部員以外でもいつでも馬に会いに行くことができます。落ち込んだときなど、馬場に行くと馬に会うと癒されます。馬に乗るだけでなく、馬の体調管理にも気を配っていて、将来医療人を目指す者として勉強になりました。私たちは馬術部に入って良かったと思います。昭和大学に入学したら是非一度馬場に遊びに来てください。



## イベント紹介

クリスマスパーティー実行委員長 藤本 京子さん  
(医学部 光塩女子学院高校出身)

クリスマスパーティーは吉田生活最後のイベントです。顔見知りの人が多くなったこの時期にやるため、また外にはきれいで豪華なイルミネーションが飾られ大変盛り上がりします。今年はバンド演奏やダンス、イベントがプログラムにあり、出演者それぞれの人が個性を発揮していました。準備期間は1ヶ月と短く、委員をどのようにまとめたらいいいのか、準備をどのように進めればいいのか分からず悩みました。しかし、委員には積極的な人が多かったので支え合い、意見を出し合ってなんとか本番を迎えることができました。実行委員長とはいえ一人では何もできないため、協力して一つのものをつくること、人を信頼することの大切さを知りました。そして当日は、多くの学生や先生も一緒に楽しんでいて、大成功のクリスマスパーティーとなりました。出演者やスタッフ、観客全員にとって辛かったこと嬉しかったこと全てが最高の思い出となったのではないのでしょうか。



広報誌の名称  
募集します!

今回第一号を発行しましたが、次回発行からの名称を公募したいと思いますので、下記のアドレスまでご応募お待ちしております。なお、応募した名称が選ばれた方には粗品を差し上げます。  
y-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp ①広報誌名称 ②お名前 ③連絡先を明記してください。  
〆切5月11日まで。個人情報とは別の目的では使用しません。